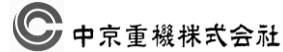


記録表 発行日	年 月 日	検 印 
注 番		

(自走式)コンクリートガラリサイクル機械  
CJ受入33項目検品表



〒465-0057 愛知県名古屋市長区陸前町1705  
サービス部 フィールドサービスグループ  
TEL : 052-701-5191 / Fax : 052-701-5193

メーカー名	中山鉄工所	型 式	NC320GX	機 械 所 有 者	様
製造(シリアル)番号	61SP-004156	アワメーター	3806HR	検 査 年 月 日	2019年8月8日(木)
エンジン型式	6BD1	検 査 者 名	米田	検査実施場所	本社内 (日進ヤード) ( )
エンジンシリアル		特 自 検	特自検ステッカー 有・無 / 点検日 年 月 / 点検者		

※ エンジン始動後、ローアイドルング(低速回転)にして、無負荷運転を約5分間実施の事

区分	No.	検 査 箇 所	検 査 内 容	検 査 方 法	評 価	備 考		
エ ン ジ ン	1	本体	a. 始動/停止性	かかり具合(異音(予熱灯・ヒーターの作動、ソレノイド))	目視 or 操作 or 聴診	A B C D E		
			b. 回転の状態	アクセルの作動、回転具合		A B C D E	アクセル不動	
			c. 排気の状態	排気色、排気音、吹き返し、マフラー外観の欠陥によるガス漏れなど		A B C D E		
			d. ブローバイガス	漏れ具合、漏出量		A B C D E	1.15	
			e. エアークリーナー	ケースの亀裂、変形、エレメントの汚れ、損傷		A B C D E		
			f. 過給機(ターボ)	異常振動、ガス漏れ、潤滑油漏れ		A B C D E		
			g. エンジン圧縮	エンジン内部コンプレッション圧計測		測定器を使用して 測定	A B C D E	2.1Mpa
			h. 背圧	ブローバイ量の計測		測定器を使用して 計測	A B C D E	1.15L/min
	2	潤滑装置	油量、汚れ、白濁、油漏れ、エレメントの汚れ(滲み)、損傷	目 視	A B C D E	ゲージ		
		3	燃料装置	燃料滲み漏れ、詰まり	目視 or 触診	A B C D E		
		4	燃料タンク	ドレンコックから水抜き実行、燃料の汚れ具合	目 視	A B C D E		
		5	燃料油種	軽油・灯油・A重油・茶灯油	目視 or 嗅診	A B C D E		
		6	冷却装置	a. クーラント	水量、濃度、汚れ(サブタンク水量: 満・中・少・無)	目視 or 触診	A B C D E	クーラント濃度-20℃
				b. 水漏れ	ウォーターホース、ドレンバルブ、キャップ機能チェック		A B C D E	
c. ラジエータ				外側コア(フィン)の目詰まり、汚れ、凹み、水漏れ	A B C D E			
d. オイルクーラー	外側コア(フィン)の目詰まり、汚れ、凹み、オイル漏れ			A B C D E				
e. ベルト/ウォーターポンプ	たわみ、摩耗、損傷、ガタの有無と程度			A B C D E				
f. 水温計	正常(適温)表示	不良						
g. その他	ファンカバーやダクトの亀裂有無・損傷及び変形など	A B C D E						
7	電気装置	オルタネータ機能、バッテリー液量、ターミナル緩み、リレー状態腐食 搭載バッテリー型式⇒[ ]	目視 or 触診 or 電圧計 目 視	A B C D E	電圧 約24V(ボルト)			
走 行 装 置	8	走行コントロール	前後発進停止、左右操舵(リモコン操作も同様)	操 作	A B C D E	リモコン不良		
	9	起動輪・遊動輪	クラック、変形、摩耗、異音、異常発熱、取付ガタ、油漏れ	目視 or 聴診 or 探傷剤	A B C D E			
	10	上部ローラー・下部ローラー	クラック、変形、摩耗、異音、異常発熱、取付ガタ	目視 or 触診	A B C D E			
	11	履 帯	ゴム/ロードライナー	欠け、劣化、摩耗、亀裂傷、スチールコード切断、損傷、心金脱落、たわみ	目 視	A B C D E		
			鉄/PAD	(シュー)クラック、変形、摩耗、シューホルト・ナット取付緩み、リンク・ブッシュクラック/欠け、ピッチ伸び、たわみ、固着				
	12	履帯調整装置	作動、調整ボルト損傷、変形、腐食、摩耗、シリンダー油漏れ	目視 or 操作 or 探傷剤	A B C D E			
	13	走行減速機	油量、異音、異常発熱、ケースクラック、損傷、油漏れ ※減速機の油量チェックは必須の事	目視 or 聴診 or 触診	A B C D E			
作 業 装 置	14	投入部	a. ホッパ	凸・凹状態、下部サドプレート摩耗状態、補強の有無	目 視	A B C D E	凸・凹入り大	
			b. グリズリ(フィーダ)	グリズリバーの摩耗程度、折れ、肉盛溶接加修の有無	目 視	A B C D E		
			c. フィーダ	凸凹曲がり状態、フレムクラックの有無 / 補強の有無	目 視	A B C D E	センサー不良	
			d. フィーダモータ	フィーダスピードコントロール調整	有・無	A B C D E		
	15	破砕部	a. 動(押)歯・固定(受)歯	共に摩耗程度(残存率は右頁下部の評価基準参照)	目 視	A B C D E	反転可・反転済	
			b. チェークプレート	摩耗程度(残存率は右頁下部の評価基準参照)	目 視	A B C D E	ポンプ	
			c. ウェッジプレート&ホルト	摩耗程度(残存率は右頁下部の評価基準参照)	目 視	A B C D E	ジャッキ不動	
			d. トグルプレート	変形・曲がりの有無、程度	目視 or スケール	A B C D E		
			e. プーリ	ベルト摩耗程度、ガタつき	目 視	A B C D E		
	16	排出コンベア(1次)	ベルト状態、張力の緩み、フレムの損傷、送りローの固着有無	目視 or 操作	A B C D E	サイドゴム摩耗		
17	排出コンベア(2次) [有・無]	ベルト状態、張力の緩み、フレムの損傷、送りローの固着有無	目視 or 操作	A B C D E	ドラム変形			
18	磁気選別機 [有・無]	ベルト状態、張力の緩み、フィン欠け、めくれ	目視 or 操作	A B C D E				
油 圧 装 置	19	作動油タンク	残油量(適量・中・少・無)、ゲージの汚れ	目 視	A B C D E			
	20	コントロールバルブ	油漏れ、異音	目視 or 聴診 or 触診	A B C D E			
	21	油圧メインポンプ	油漏れ(本体/サクシオンホース付近)、異常振動、異音	目視 or 聴診 or 触診	A B C D E			
	22	コンベアモータ(磁選機アーマー付き)	油漏れ、異常振動、異音、異常発熱	目視 or 触診	A B C D E			
	23	油圧ホース類	接続、カンメ部の漏れ滲み、損傷、劣化、摩耗	目視 or 触診	A B C D E	劣化		
	24	油圧シリンダ	コンベア折畳シリンダ	自然沈下、油しみ漏れ、伸縮不良、サビ、傷、曲がり	目視 or 操作	A B C D E		
コンベア昇降シリンダ			自然沈下、油しみ漏れ、伸縮不良、サビ、傷、曲がり	目視 or 操作	A B C D E			

区分	No.	検査箇所	検査内容	検査方法	評価	備考
安全装置・車体関係等	25	昇降設備	亀裂、損傷、変形、取付ガタ	目視	A B C D E	左側欠品
	26	灯火装置、警報器	作動状態、取付ガタ、レンズ破損、浸水	目視 or 操作	A B C D E	不灯
	27	回転/警告灯 [ 有 ・ 無 ]	作動状態、取付ガタ、レンズ破損	操作	良 不良	
	28	計器類	作動状態	操作目視	A B C D E	
	29	セキュリティ	イモビライザー、電子Key、隠しスイッチ、パスワードなど	操作	有 (無)	
	30	反射鏡、後写鏡	汚れ、損傷、破損	目視	A B C D E	
	31	給油脂	給油脂状態	目視 or 操作	A B C D E	
	32	レバー類	グリップ状態、変形、損傷	目視 or 操作	A B C D E	
	33	非常停止装置	作動状態	操作	良 不良	

実機機械状態から具体的な検査結果報告(特記事項がなければ未記入で可)を記載の事

No.1	・アクセル、ローアイドルから不動
No.2	
No.3	
No.4	
No.5	
No.6	
No.7	・リモコン、スイッチ入る、リレーも反応するが動かない
No.8	
No.9	
No.10	
No.11	
No.12	
No.13	・ホッパ、凹みあり、レベルセンサーカットしてある
No.14	・シム調整用ポンプ、ジャッキ不良
No.15	・サイドゴム摩耗、コンベアフレーム変形
No.16	・ドラム変形
No.17	
No.18	
No.19	
No.20	
No.21	
No.22	
No.23	
No.24	
No.25	
No.26	
No.27	
No.28	
No.29	
No.30	
No.31	
No.32	
No.33	

現在のジョークラッシュ出口隙間(開き側)

※検査方法として、吐出口が一番開いている(フライホイールの白ペンキ部が垂直方向真上)時に受歯の山から動歯の谷までの距離を、30~60mmのブロックが付いた測定用ロッドを用いて測定。



出口隙間寸法 A mm

- 備考
1. 検査結果を評価欄の5段階評価(A~E)の中で該当する程度・状態を○で囲む。
  2. 5段階評価の検査結果に異常(D・E)があった場合には、上記の該当番号欄へ推測される具体的な不具合状態を記入の事。

**概要評価基準**

- A: 新品に近く非常に良好な状態の場合
- B: 摩耗・損傷が少なく良好な状態の場合
- C: 稼働時間相当の摩耗・損傷があるが、継続使用が可能な状態の場合
- D: 稼働はするが修理が必要な状態の場合
- E: 即修理をしないと稼働しない状態の場合

**個別評価基準(残存率による評価の場合は%を参照)**

- A: 新品に近く非常に良好な状態の場合 / 100~90%
- B: 摩耗・損傷が少なく良好な状態の場合 / 90~70%
- C: 稼働時間相当の摩耗・損傷があるが、継続使用が可能な状態の場合 / 70~40%
- D: 稼働はするが修理が必要な状態の場合 / 40~20%
- E: 即修理をしないと稼働しない状態の場合 / 20~0%